

中小企業退職金共済制度の現況及び
平成 18 事業年度決算について

中小企業退職金共済制度の現況

中小企業退職金共済制度の現況

1 新規加入状況

(単位:件・人)

年度	共済契約者数					被共済者数				
	計	一般	建設業	清酒製造業	林業	計	一般	建設業	清酒製造業	林業
14年度	26,664	16,067	10,533	0	64	510,534	314,653 (7,020)	193,358	278	2,245
15年度	25,703	14,936	10,726	1	40	557,540	356,946 (5,483)	197,764	296	2,534
16年度	23,651	14,283	9,306	0	62	541,958	361,578 (6,486)	177,756	220	2,404
17年度	24,970	16,821	8,100	9	40	603,552	438,120 (5,926)	163,261	194	1,977
18年度	23,543	16,232	7,228	1	82	569,806	416,246 (6,656)	151,309	183	2,068

(注1) 被共済者数の項の一般の中小企業退職金共済制度の各欄における数値は事業所単位の新規加入者数及び従業員単位の追加加入者数の小計であり、下段()は短時間労働者である。

(注2) 建設業及び清酒製造業については特別共済事業を含む。

2 在籍状況

(単位 件・人)

年度	共済契約者数					被共済者数				
	計	一般	建設業	清酒製造業	林業	計	一般	建設業	清酒製造業	林業
14年度	586,080	406,303	173,467	2,584	3,726	5,093,331	2,598,824 (37,832)	2,414,388	33,930	46,189
15年度	580,140	395,544	178,378	2,554	3,664	5,184,556	2,608,928 (36,272)	2,496,783	33,515	45,330
16年度	576,783	387,954	182,634	2,542	3,653	5,295,148	2,643,685 (36,649)	2,573,642	33,156	44,665
17年度	579,126	385,079	187,883	2,542	3,622	5,475,362	2,758,872 (36,775)	2,640,192	32,899	43,399
18年度	577,630	382,436	189,104	2,535	3,555	5,612,730	2,842,440 (37,833)	2,695,251	32,702	42,337

(注1) 被共済者数の項の一般の中小企業退職金共済制度の各欄における下段()は、短時間労働者である。

(注2) 建設業及び清酒製造業については特別共済事業を含む。

3 退職金等支給状況

年度	合計			一般の中退 (上段:一時金払、下段:分割払)			建設業			清酒製造業			林業		
	支給件数 (単位) (件)	支給総額 (百万円)	1件当たり 支給金額 (分割払除く) (円)	支給件数 (件)	支給総額 (百万円)	1件当たり 支給金額 (円)	支給件数 (件)	支給総額 (百万円)	1件当たり 支給金額 (円)	支給件数 (件)	支給総額 (百万円)	1件当たり 支給金額 (円)	支給件数 (件)	支給総額 (百万円)	1件当たり 支給金額 (円)
14年度	439,760	520,809	1,210,798	323,280 11,222	421,832 1,936	1,304,849 172,540	101,034	93,099	921,461	702	899	1,280,368	3,522	3,044	864,159
15年度	402,956	480,645	1,221,473	293,572 11,029	385,636 1,917	1,313,601 173,773	94,647	89,509	945,717	703	884	1,257,226	3,005	2,699	898,070
16年度	372,462	437,626	1,203,310	273,107 10,253	351,823 1,776	1,288,224 173,266	85,850	80,819	941,395	574	768	1,337,372	2,678	2,440	911,286
17年度	356,109	411,727	1,181,383	263,278 8,894	333,146 1,533	1,265,378 172,346	80,908	74,137	916,309	442	606	1,372,134	2,587	2,305	890,804
18年度	361,113	426,642	1,204,438	270,201 8,038	348,941 1,385	1,291,414 172,311	80,190	73,798	920,286	372	459	1,234,323	2,312	2,059	890,459

(注1) 一般の中小企業退職金制度における分割払の「支給件数」は、支給期月毎の分割退職金の延べ支給件数であり、分割払の「1件当たりの支給金額」は、支給期月毎の分割退職金の額である。

(注2) 平成18年度の退職金受給者の平均掛金納付月数は、一般115月、建設業108月、清酒製造業189月、林業135月(なお、平成17年度については、それぞれ、114月、108月、201月、138月)。

(注3) 建設業及び清酒製造業については特別共済事業を含む。

(注4) 支給総額は単位未満を四捨五入していることから、合計が内訳と一致しない場合がある。

(注5) 1件当たり支給金額については、円単位による支給総額と支給件数により算出している。

4 一般の中小企業退職金共済制度の平均掛金月額等の状況

(単位:円)

年度	平均掛金月額
14年度	9,221
15年度	9,297
16年度	9,371
17年度	9,340
18年度	9,352

5 特定業種退職金共済制度の掛金日額の状況

(単位:円)

年度	建設業	清酒製造業	林業
14年度	300	300	450
15年度	310 (10月~)	300	460 (10月~)
16年度	310	300	460
17年度	310	300	460
18年度	310	300	460

(注) 平均掛金月額は、各年度末時点のものである。

6 資産運用状況

(単位 百万円)

年度	計				
		一般	建設業	清酒製造業	林業
14年度	3,985,445	2,998,260	963,193	8,432	15,560
15年度	3,948,730	2,981,748	943,825	8,065	15,092
16年度	4,004,837	3,051,057	931,817	7,547	14,417
17年度	4,393,216	3,423,751	948,340	7,255	13,869
18年度	4,550,792	3,588,811	941,475	7,049	13,457

(注1) 平成14年度までは「特殊法人等会計処理基準」、平成15年度以降は「独立行政法人会計基準」による。

(注2) 建設業及び清酒製造業については特別共済事業を含む。

(注3) 単位未満を四捨五入していることから、合計が内訳と一致しない場合がある。

一般の中小企業退職金共済事業における資産運用状況

(単位：千円、%)

区分 運用方法	平成15事業年度(9月末)		平成15事業年度(10月1日承継時)		平成15事業年度(3月末)		平成16事業年度		平成17事業年度		平成18事業年度	
	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比
財政融資資金預託金	641,307,000	21.6	641,307,000	22.1	584,520,000	19.6	491,432,000	16.1	397,709,000	11.6	314,201,000	8.8
金融債	174,000,000	5.9	174,000,000	6.0	170,000,000	5.7	141,000,000	4.6	129,500,000	3.8	128,500,000	3.6
商工債	(174,000,000)		(174,000,000)		(170,000,000)		(141,000,000)		(129,500,000)		(128,500,000)	
政府保証債	25,896,100	0.9	25,938,091	0.9	25,943,243	0.9	25,953,548	0.9	25,963,852	0.8	25,974,156	0.7
中小企業債	(4,468,500)		(4,478,120)		(4,479,682)		(4,482,806)		(4,485,930)		(4,489,054)	
公営企業債	(13,463,850)		(13,480,062)		(13,481,855)		(13,485,440)		(13,489,025)		(13,492,610)	
道路債	(7,963,750)		(7,979,909)		(7,981,707)		(7,985,302)		(7,988,897)		(7,992,492)	
国債	591,403,360	19.9	592,755,275	20.5	691,609,425	23.2	856,942,420	28.1	1,143,343,024	33.4	1,313,038,387	36.6
社債	52,147,410	1.8	52,184,878	1.8	44,687,424	1.5	41,190,786	1.4	41,191,796	1.2	41,192,805	1.1
地方債	22,171,278	0.7	22,173,887	0.8	21,929,470	0.7	21,440,636	0.7	19,950,445	0.6	16,748,070	0.5
円貨建外国債	100,000,000	3.4	100,000,000	3.5	100,000,000	3.4	100,000,000	3.3	100,000,000	2.9	100,000,000	2.8
生命保険資産	301,091,897	10.1	250,556,002	8.6	245,156,883	8.2	241,970,376	7.9	240,846,128	7.0	239,255,453	6.7
金銭信託	968,941,125	32.6	938,933,379	32.4	1,015,137,145	34.0	1,059,596,464	34.7	1,250,524,343	36.5	1,346,134,245	37.5
指定金銭信託	(551,000,000)		(513,887,025)		(568,029,866)		(594,583,045)		(602,864,422)		(655,291,188)	
特定金銭信託	(417,941,125)		(376,212,395)		(378,464,747)		(393,976,287)		(548,467,583)		(570,129,297)	
新団体生存保険	(-)		(48,833,960)		(68,642,533)		(71,037,132)		(99,192,338)		(120,713,760)	
預け金	94,258,977	3.2	94,258,977	3.3	77,365,234	2.6	66,531,350	2.2	70,063,719	2.0	59,287,954	1.7
長期貸付金	1,831,000	0.1	1,831,000	0.1	1,650,000	0.1	1,289,000	0.0	988,000	0.0	831,000	0.0
投資不動産	755,486	0.0	3,768,999	0.1	3,749,420	0.1	3,710,261	0.1	3,671,100	0.1	3,648,371	0.1
合計	2,973,803,633	100.0	2,897,707,488	100.0	2,981,748,243	100.0	3,051,056,840	100.0	3,423,751,406	100.0	3,588,811,441	100.0
平均運用利回り	1.68%		-		5.37%		2.84%		8.34%		2.81%	

(注1) 平成15事業年度(9月末)までは「特殊法人等会計処理基準」、平成15事業年度(10月1日承継時)以降は「独立行政法人会計基準」による。

(注2) 新団体生存保険は、平成15年9月までは生命保険資産に、平成15年10月以降は金銭信託に区分変更した。

(注3) 端数は四捨五入していることから、合計が内訳と一致しない場合がある。

建設業退職金共済事業における資産運用状況

(単位：千円、%)

区分 運用方法	平成15事業年度(9月末)		平成15事業年度(10月1日承継時)		平成15事業年度(3月末)		平成16事業年度		平成17事業年度		平成18事業年度	
	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比
財政融資資金預託金	182,400,000	19.3	182,400,000	19.5	172,840,000	18.4	143,840,000	15.5	119,840,000	12.7	95,940,000	10.2
金融債	63,629,796	6.7	63,629,948	6.8	58,929,964	6.2	35,499,993	3.8	25,000,000	2.6	13,000,000	1.4
商工債	(60,830,000)		(60,830,000)		(56,430,000)		(32,800,000)		(21,400,000)		(7,900,000)	
しんきん中金債	(2,099,953)		(2,099,986)		(2,099,990)		(2,400,000)		(3,600,000)		(5,100,000)	
日本興業債	(699,843)		(699,962)		(399,974)		(299,993)		(-)		(-)	
政府保証債	205,705,597	21.8	216,956,907	23.1	219,472,713	23.3	196,461,671	21.1	196,068,048	20.7	195,023,074	20.7
都市基盤整備債	(18,636,525)		(19,875,972)		(19,584,747)		(12,393,137)		(5,998,632)		(201,715)	
道路債	(51,737,443)		(54,221,271)		(70,071,947)		(100,196,328)		(113,924,496)		(105,526,758)	
東日本高速道路債	(-)		(-)		(-)		(-)		(1,994,737)		(2,990,364)	
中日本高速道路債	(-)		(-)		(-)		(-)		(2,992,220)		(6,470,917)	
西日本高速道路債	(-)		(-)		(-)		(-)		(1,994,507)		(1,995,075)	
日本高速道路保有・債務返済機構債	(-)		(-)		(-)		(-)		(10,464,879)		(38,836,651)	
公営企業債	(133,918,346)		(141,374,884)		(122,231,066)		(76,286,509)		(51,112,135)		(31,513,907)	
中小企業債	(594,399)		(603,350)		(7,584,953)		(7,585,697)		(7,586,442)		(7,487,687)	
東京湾横断道路債	(99,100)		(102,080)		(-)		(-)		(-)		(-)	
石油債	(719,784)		(779,350)		(-)		(-)		(-)		(-)	
国債	75,243,420	8.0	80,180,380	8.5	80,200,041	8.5	145,559,441	15.6	180,581,431	19.0	222,007,431	23.6
地方債	559,000	0.1	560,626	0.1	508,522	0.1	404,314	0.0	299,407	0.0	299,700	0.0
特定社債	-	-	200,000	0.0	200,000	0.0	200,000	0.0	-	-	-	-
社債	8,804,635	0.9	8,609,036	0.9	8,609,284	0.9	3,549,727	0.4	3,049,907	0.3	1,800,000	0.2
特定社債	(200,000)		(-)		(-)		(-)		(-)		(-)	
瓦斯債	(500,000)		(500,000)		(500,000)		(500,000)		(500,000)		(400,000)	
私鉄債	(500,000)		(500,000)		(500,000)		(300,000)		(300,000)		(-)	
電力債	(7,006,335)		(7,009,560)		(7,009,713)		(2,149,967)		(1,749,987)		(1,400,000)	
通信債	(598,300)		(599,476)		(599,571)		(599,760)		(499,921)		(-)	
生命保険資産	86,449,925	9.2	86,449,925	9.2	84,969,825	9.0	80,762,034	8.7	77,498,271	8.2	74,271,096	7.9
金銭信託	298,400,000	31.6	276,868,426	29.5	288,301,867	30.5	299,511,105	32.1	326,946,686	34.5	316,872,347	33.7
指定金銭信託	(130,600,000)		(122,596,826)		(112,184,675)		(116,945,219)		(107,495,358)		(111,254,069)	
特定金銭信託	(167,800,000)		(154,271,600)		(176,117,192)		(182,565,886)		(219,451,327)		(205,618,278)	
預け金	22,611,481	2.4	22,611,481	2.4	29,486,863	3.1	25,770,758	2.8	18,869,686	2.0	22,115,466	2.3
長期貸付金	327,759	0.0	327,759	0.0	306,402	0.0	257,563	0.0	187,004	0.0	145,670	0.0
合計	944,131,613	100.0	938,794,488	100.0	943,825,481	100.0	931,816,608	100.0	948,340,440	100.0	941,474,782	100.0
平均運用利回り	1.36%		-		3.05%		1.97%		4.35%		2.00%	
	1.73%		-		3.87%		2.00%		5.22%		1.92%	

(注1) 平成15事業年度(9月末)までは「特殊法人等会計処理基準」、平成15事業年度(10月1日承継時)以降は「独立行政法人会計基準」による。

(注2) 運用額については特別共済事業を含む。

(注3) 端数は四捨五入していることから、合計が内訳と一致しない場合がある。

(注4) 平均運用利回りの上段は給付経理、下段は特別給付経理である。

(注5) 特定社債は、従前は「社債」の位置付けであったが、平成15年9月30日付厚生労働省告示により「特別の法律により発行する債券」となった。

清酒製造業退職金共済事業における資産運用状況

(単位 : 千円、%)

区分 運用方法	平成15事業年度(9月末)		平成15事業年度(10月1日承継時)		平成15事業年度(3月末)		平成16事業年度		平成17事業年度		平成18事業年度	
	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比
財政融資資金預託金	1,410,300	17.4	1,410,300	17.0	1,347,300	16.7	1,062,000	14.1	802,000	11.1	344,000	4.9
政府保証債	1,620,309	20.0	1,735,123	21.0	1,699,478	21.1	1,601,235	21.2	915,933	12.6	560,082	8.0
中小企業債	(39,835)		(41,160)		(40,348)		(-)		(-)		(-)	
道路債	(298,500)		(322,230)		(318,750)		(309,630)		(153,248)		(156,192)	
公営企業債	(1,092,224)		(1,168,230)		(1,159,130)		(1,134,240)		(609,280)		(403,890)	
電源開発債	(39,900)		(42,448)		(20,960)		(-)		(-)		(-)	
鉄道建設債	(149,850)		(161,055)		(160,290)		(157,365)		(153,405)		(-)	
国債	3,040,865	37.5	3,274,917	39.6	3,256,119	40.4	3,173,040	42.0	3,049,501	42.0	3,999,209	56.7
生命保険資産	437,613	5.4	437,613	5.3	239,663	3.0	201,271	2.7	204,006	2.8	206,932	2.9
金銭信託	1,470,000	18.1	1,288,270	15.6	1,335,152	16.5	1,393,208	18.4	1,602,558	22.1	1,663,288	23.6
指定金銭信託	(1,470,000)		(1,288,270)		(1,335,152)		(1,393,208)		(1,602,558)		(1,663,288)	
預け金	102,384	1.3	102,384	1.2	160,793	2.0	95,316	1.3	662,816	9.1	259,446	3.7
長期貸付金	27,800	0.3	27,800	0.3	26,380	0.3	20,500	0.3	18,500	0.3	16,500	0.2
合計	8,109,271	100.0	8,276,407	100.0	8,064,885	100.0	7,546,571	100.0	7,255,313	100.0	7,049,456	100.0
平均運用利回り	1.86%		-		1.80%		1.30%		3.56%		1.66%	
	2.96%		-		0.37%		0.36%		0.40%		0.56%	

(注1) 平成15事業年度(9月末)までは「特殊法人等会計処理基準」、平成15事業年度(10月1日承継時)以降は「独立行政法人会計基準」による。

(注2) 運用額については特別共済事業を含む。

(注3) 端数は四捨五入していることから、合計が内訳と一致しない場合がある。

(注4) 平均利回りの上段は給付経理、下段は特別給付経理である。

(注5) 有価証券については保有目的を「その他有価証券」としているため、年度末時価をもって期末資産額としている。

林業退職金共済事業における資産運用状況

(単位：千円、%)

区分 運用方法	平成15事業年度(9月末)		平成15事業年度(10月1日承継時)		平成15事業年度(3月末)		平成16事業年度		平成17事業年度		平成18事業年度	
	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比	運用額	構成比
財政融資資金預託金	3,596,000	24.2	3,596,000	23.8	3,324,000	22.1	2,580,000	17.9	1,963,000	14.2	1,553,000	11.5
政府保証債	4,485,230	30.2	4,815,955	31.9	4,953,304	32.8	5,524,054	38.3	4,342,005	31.3	3,356,818	24.9
道路債	(100,000)		(105,550)		(103,964)		(795,773)		(945,100)		(945,654)	
公営企業債	(4,385,230)		(4,710,405)		(4,849,339)		(4,728,281)		(3,396,904)		(1,561,641)	
日本高速道路保有・ 債務返済機構債											(649,362)	
中日本高速道路債											(200,161)	
国債	1,766,104	11.9	1,886,707	12.5	1,872,006	12.4	1,842,604	12.8	2,707,758	19.5	3,821,705	28.4
生命保険資産	989,872	6.6	989,872	6.5	998,771	6.6	502,564	3.5	467,873	3.4	524,521	3.9
金銭信託	3,873,000	26.1	3,670,142	24.3	3,772,410	25.0	3,872,098	26.8	4,070,923	29.4	4,165,073	31.0
指定金銭信託	(3,873,000)		(3,670,142)		(3,772,410)		(3,872,098)		(4,070,923)		(4,165,073)	
預け金	148,032	1.0	148,032	1.0	171,173	1.1	95,855	0.7	317,099	2.2	35,684	0.3
合計	14,858,238	100.0	15,106,708	100.0	15,091,664	100.0	14,417,174	100.0	13,868,658	100.0	13,456,801	100.0
平均運用利回り	1.68%		—		1.98%		1.27%		2.07%		1.51%	

(注1) 平成15事業年度(9月末)までは「特殊法人等会計処理基準」、平成15事業年度(10月1日承継時以降)は「独立行政法人会計基準」による。

(注2) 端数は四捨五入していることから、合計が内訳と一致しない場合がある。

(独) 勤労者退職金共済機構の
平成 18 事業年度決算の概要

独立行政法人勤労者退職金共済機構

貸借対照表【要旨】

平成19年 3月31日現在

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額		
(資産の部)			
I 流動資産			
現金及び預金		19,795	
有価証券		139,822	
金銭信託		1,668,834	
未収収益		8,047	
預託金		118,352	
その他		259	
流動資産合計			1,955,112
II 固定資産			
1 有形固定資産		4,098	
2 無形固定資産		155	
3 投資その他の資産		2,605,865	
固定資産合計			2,610,119
資産合計			4,565,231
(負債の部)			
I 流動負債			
未払給付金		3,183	
前受金		2,176	
その他		1,063	
流動負債合計			6,424
II 固定負債			
共済契約準備金		4,474,904	
その他		98	
固定負債合計			4,475,003
負債合計			4,481,427
(資本の部)			
I 資本剰余金			△ 6
II 利益剰余金			83,795
III その他有価証券評価差額金			15
資本合計			83,804
負債資本合計			4,565,231

独立行政法人勤労者退職金共済機構

損益計算書【要旨】

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額		
経常費用			
業務費			
人件費	2,642		
退職給付等	428,577		
運用費用等	3,178		
支払備金繰入	7,123		
責任準備金繰入	73,676		
その他	3,645	518,843	
一般管理費		817	
経常費用合計			519,662
経常収益			
運営費交付金収益		3,950	
事業収益			
掛金収入等	469,165		
運用収入等	116,657	585,823	
補助金等収益		7,148	
その他		12	
経常収益合計			596,935
経常利益			77,272
臨時利益			
貸倒引当金戻入益		0	0
臨時利益合計			0
当期純利益			77,273
当期総利益			77,273

独立行政法人勤労者退職金共済機構 一般の中小企業退職金共済事業等勘定
貸借対照表【要旨】

平成19年3月31日現在

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科 目	金 額		
(資産の部)			
I 流動資産			
現金及び預金		2,745	
有価証券		100,299	
金銭信託		1,346,134	
未収収益		6,810	
その他		92,801	
流動資産合計			1,548,791
II 固定資産			
1 有形固定資産		3,945	
2 無形固定資産		140	
3 投資その他の資産		2,045,201	
固定資産合計			2,049,287
資産合計			3,598,078
(負債の部)			
I 流動負債			
未払給付金		3,071	
前受金		2,176	
その他		793	
流動負債合計			6,042
II 固定負債			
共済契約準備金		3,606,067	
その他		97	
固定負債合計			3,606,165
負債合計			3,612,207
(資本の部)			
I 資本剰余金			
損益外減損損失累計額		△ 4	
資本剰余金合計			△ 4
II 繰越欠損金			
当期末処理損失 (うち当期総利益71,359)		△ 14,124	
繰越欠損金合計			△ 14,124
資本合計			△ 14,128
負債資本合計			3,598,078

独立行政法人勤労者退職金共済機構 一般の中小企業退職金共済事業等勘定
損益計算書【要旨】

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科 目	金 額		
経常費用			
業務費			
人件費	2,067		
退職給付金等	352,502		
運用費用等	2,558		
支払備金繰入	7,389		
責任準備金繰入	86,768		
その他	1,644	452,931	
一般管理費		598	
経常費用合計			453,530
経常収益			
運営費交付金収益		3,049	
事業収益			
掛金収入等	418,494		
運用収入等	97,467	515,962	
補助金等収益		5,864	
その他		12	
経常収益合計			524,889
経常利益			71,358
臨時利益			
貸倒引当金戻入益		0	0
当期純利益			71,359
当期総利益			71,359

独立行政法人勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業等勘定
貸借対照表【要旨】

平成19年 3月31日現在

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額	
(資産の部)		
I 流動資産		
現金及び預金	16,551	
有価証券	37,525	
金銭信託	316,872	
未収収益	1,208	
預託金	25,100	
その他	51	
流動資産合計		397,309
II 固定資産		
1 有形固定資産	150	
2 無形固定資産	14	
3 投資その他の資産	548,937	
固定資産合計		549,102
資産合計		946,411
(負債の部)		
I 流動負債		
運営費交付金債務	29	
未払給付金	112	
その他	195	
流動負債合計		336
II 固定負債		
共済契約準備金	847,830	
その他	0	
固定負債合計		847,830
負債合計		848,167
(資本の部)		
I 資本剰余金		
損益外減損損失累計額	△ 1	
資本剰余金合計		△ 1
II 利益剰余金		
積立金	92,412	
当期末処分利益	5,832	
(うち当期総利益 5,832)		
利益剰余金合計		98,245
資本合計		98,244
負債資本合計		946,411

独立行政法人勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業等勘定
損益計算書【要旨】

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額	
経常費用		
業務費		
人件費	445	
退職給付金等	74,702	
運用費用等	615	
業務委託費	1,271	
その他	678	
一般管理費		122
経常費用合計		77,836
経常収益		
運営費交付金収益		630
事業収益		
掛金収入等	50,246	
運用収入等	18,927	
補助金等収益		1,236
支払備金戻入		279
責任準備金戻入		12,348
その他		0
経常収益合計		83,669
経常利益		5,832
当期純利益		5,832
当期総利益		5,832

独立行政法人勤労者退職金共済機構 清酒製造業退職金共済事業等勘定
貸借対照表【要旨】

平成19年 3月31日現在

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額		
(資産の部)			
I 流動資産			
現金及び預金		334	
有価証券		967	
金銭信託		1,663	
未収収益		7	
その他		2	
流動資産合計			2,975
II 固定資産			
1 有形固定資産		2	
2 無形固定資産		0	
3 投資その他の資産		4,157	
固定資産合計			4,159
資産合計			7,134
(負債の部)			
I 流動負債			
運営費交付金債務		9	
その他		2	
流動負債合計			12
II 固定負債			
共済契約準備金		6,039	
その他		0	
固定負債合計			6,039
負債合計			6,052
(資本の部)			
I 資本剰余金			
損益外減損損失累計額		0	
資本剰余金合計			0
II 利益剰余金			
積立金		1,026	
当期末処分利益		41	
(うち当期総利益 41)			
利益剰余金合計			1,068
III その他有価証券評価差額金			15
資本合計			1,082
負債資本合計			7,134

独立行政法人勤労者退職金共済機構 清酒製造業退職金共済事業等勘定
損益計算書【要旨】

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額		
経常費用			
業務費			
人件費	55		
退職給付金等	459		
運用費用等	0		
業務委託費	7		
その他	27	550	
一般管理費		47	
経常費用合計			597
経常収益			
運営費交付金収益		113	
事業収益			
掛金収入等	126		
運用収入等	114	240	
補助金等収益		3	
支払備金戻入		0	
責任準備金戻入		281	
その他		0	
経常収益合計			638
経常利益			41
当期純利益			41
当期総利益			41

独立行政法人勤労者退職金共済機構 林業退職金共済事業等勘定
貸借対照表【要旨】

平成19年 3月31日現在

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額	
(資産の部)		
I 流動資産		
現金及び預金		164
有価証券		1,030
金銭信託		4,165
未収収益		19
預託金		656
その他		0
流動資産合計		6,036
II 固定資産		
1 有形固定資産		0
2 無形固定資産		0
3 投資その他の資産		7,569
固定資産合計		7,569
資産合計		13,606
(負債の部)		
I 流動負債		
運営費交付金債務		12
その他		19
流動負債合計		32
II 固定負債		
共済契約準備金		14,967
その他		0
固定負債合計		14,967
負債合計		14,999
(資本の部)		
I 資本剰余金		
損益外減損損失累計額		0
資本剰余金合計		0
II 繰越欠損金		
当期未処理損失		△ 1,393
(うち当期総利益 40)		
繰越欠損金合計		△ 1,393
資本合計		△ 1,393
負債資本合計		13,606

独立行政法人勤労者退職金共済機構 林業退職金共済事業等勘定
損益計算書【要旨】

平成19年 3月31日現在

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	金額	
経常費用		
業務費		
人件費	74	
退職給付金等	2,082	
運用費用等	3	
業務委託費	33	
支払備金繰入	8	
その他	28	
一般管理費		64
経常費用合計		2,297
経常収益		
運営費交付金収益		157
事業収益		
掛金収入等	1,467	
運用収入	206	1,674
補助金等収益		43
責任準備金戻入		462
その他		0
経常収益合計		2,337
経常利益		40
当期純利益		40
当期総利益		40

独立行政法人勤労者退職金共済機構

行政サービス実施コスト計算書

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(単位：円)

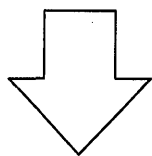
科 目	金 額		
I 業務費用			
損益計算書上の費用			
業務費	518,843,591,016		
一般管理費	817,948,853		
財務費用	834,859	519,662,374,728	
(控除)			
事業収益	△ 585,823,200,512		
財務収益	△ 79,355		
雑益	△ 3,290,459		
臨時利益	△ 498,805	△ 585,827,069,131	
業務費用合計			△ 66,164,694,403
II 損益外減損損失相当額			6,256,000
III 引当外退職給付増加見積額			△ 529,844,832
IV 行政サービス実施コスト			△ 66,688,283,235

独立行政法人勤労者退職金共済機構の決算が確定するまでの流れ

- 独立行政法人は、毎事業年度、財務諸表を作成し、当該事業年度の終了後3ヶ月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。(独立行政法人通則法第38条第1項)
- また、主務大臣は、財務諸表を承認しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かななければならない。(独立行政法人通則法第38条第3項)

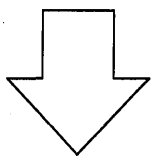
平成19年6月29日

- 独立行政法人勤労者退職金共済機構（以下「機構」という。）が厚生労働大臣に財務諸表を提出。



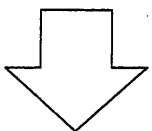
平成19年7月27日

- 独立行政法人評価委員会労働部会（以下「評価委員会」という。）（第38回）開催（機構について議論。）



平成19年8月8日

- 評価委員会（第40回）開催（財務諸表に関する意見についてとりまとめ。）
- 評価委員会委員長が厚生労働大臣に意見書を提出（8月17日付）。



平成19年9月11日

- 厚生労働大臣が機構に対して財務諸表を承認する旨通知。

〈参考〉

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三三号）（抄）

（財務諸表等）

第三十八条 独立行政法人は、毎事業年度、貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書（以下「財務諸表」という。）を作成し、当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。

2 (略)

3 主務大臣は、第一項の規定により財務諸表を承認しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならぬ。

4 (略)

一般の中小企業退職金共済制度における
財政状況の現状と課題

一般の中小企業退職金制度における財政状況の検討について

1. 財政状況の現状

我が国においては、景気の低迷が長引き、金利や株価が極めて低い水準で推移していたことから、一般の中小企業退職金共済制度（以下「中退制度」という。）においては、実際の運用利回りが予定運用利回りを下回ることにより、責任準備金の積立不足が増大し、平成12年度末現在で2,000億円を超える累積欠損金が存在していた。累積欠損金の存在は、本来得られるべき運用収入が得られないことにより積立不足が一層拡大し、制度の財政の健全性を大きく損なうことになるとともに、制度運営に対する信頼を損ね、ひいては加入者の減少を招くおそれもあることから、その解消が課題となっていた。

これに対するこれまでの取組は以下のとおり。

○予定運用利回りの見直し

平成14年11月より、予定運用利回りを従来の3%から1%に引下げ

○単年度で生じる利益の配分ルールの変更

利益の見込額の2分の1を累積欠損金の解消に、残りの2分の1を付加退職金の支給に充てる原則的ルールを策定

○累積欠損金解消計画の策定

累積欠損金の具体的な解消年限、中期目標期間中の解消目標額及び年度ごとに解消すべき累積欠損金の額としての目安額（180億円）を設定した「累積欠損金解消計画」を策定

結果として、解消額目標額を大幅に超える累積欠損金を解消し（平成17・18年度の2年間の解消目標額：360億円、実際の解消額：2,132億円）、平成18年度末において累積欠損金は約151億円まで縮小している。

2. 検討課題

○財政再計算

中小企業退職金共済法第85条において、「掛金及び退職金等の額は、少なくとも5年ごとに、退職金等の支給に要する費用及び運用収入の額の推移及

び予想等を基礎として、検討するものとする」とされており、前回の平成 14 年度の予定運用利回りの見直しから約 5 年が経過していることから、掛金及び退職金の額の見直しを検討する。

○支払備金の計上方法の変更

退職後 5 年を経過した退職金未請求者にかかる退職金額を支払備金（負債）から除外し収益化していたが、その一部又は全額を支払備金に再度計上することを検討する。

一般の中小企業退職金共済事業給付経理における財政状況の推移

年 度	予 定 運 用 利 回 り	運 用 利 回 り (実 績)	当 期 純 利 益 (当 期 純 損 失)	利 益 剰 余 金 (累 積 欠 損 金)	付 加 退 職 金 支 給 率
平成14年度	<u>1.00%</u> (11月~)	1.60%	△170億円	△2,571億円	0
平成15年度 前 期	1.00%	1.68%	103億円	△2,468億円	0
平成15年度 後 期	1.00%	5.37%	545億円	△2,684億円	0
平成16年度	1.00%	2.84%	401億円	△2,283億円	0.00233
平成17年度	1.00%	8.34%	1,417億円	△ 867億円	0.00602
平成18年度	1.00%	2.81%	715億円	△ 151億円	0.0214
平成19年度	1.00%	—	—	—	0

(注) ・ 下線については予定運用利回りの改正を行ったもの。
 ・ 平成15年10月以降は、独立行政法人会計基準を適用。

累積欠損金解消計画（概要）（平成 17 年 10 月 1 日独立行政法人勤労者退職金共済機構中小企業退職金共済事業本部）

1 計画の基本的考え方

(1) 累積欠損金の状況

一般の中小企業退職金共済事業（以下「中退共」という。）において累積欠損金は平成 5 年度末に 4 百万円を計上した後、市場金利の低下に伴って増加傾向で推移し、独立行政法人となった平成 15 年 10 月時点で 3,230 億円となったが、平成 14 年 11 月の予定運用利回りの引下げ（3.0%→1.0%）や市場環境の好転を背景に 15・16 事業年度において当期利益金を確保し、平成 16 年度末では累積欠損金が 2,284 億円に縮小している。

(2) 計画の性格

総務省政策評価・独立行政法人評価委員会委員長通知（平成 16 年 12 月 10 日）や労働政策審議会勤労者生活分科会中小企業退職金共済部会意見書（平成 17 年 3 月 11 日）を踏まえ、平成 17 年 3 月 17 日、厚生労働省労働基準局長から独立行政法人勤労者退職金共済機構（以下「機構」という。）に対して「中小企業退職金共済制度の運営改善について」の通知が出された。

このため、本計画を策定し、累積欠損金の解消に当たっての具体的な解消年限、中期計画期間内の解消目標額及び年度ごとに解消すべき累積欠損金の額としての目安額を明らかにするとともに、具体的な対策の基本となる考え方を示す。

なお、本計画については、経済情勢の変化や目標達成の進捗状況等を踏まえ中期計画策定時等において必要な見直しを行う。

(3) 計画の前提

- ① 予定運用利回りは年 1%とする。
- ② 年度ごとに解消する累積欠損金及び付加退職金の配分方法は、上記(2)の厚生労働省労働基準局長通知において示された以下の処理方法による。
 - (i) 利益の見込額が年度ごとに解消すべき累積欠損金の額の 2 倍に相当する額以上のときは、当該利益の見込額の 2 分の 1 に相当する額を累積欠損金の解消に、残りの 2 分の 1 に相当する額を付加退職金に充てる。
 - (ii) 利益の見込額が年度ごとに解消すべき累積欠損金の額の 2 倍に相当する額を下回るときは、まず当該利益の見込額のうち年度ごとに解消すべき累積欠損金の額に相当する額を累積欠損金の解消に充て、残額を付加退職金に充てる。
- ③ 加入者数、脱退者数、平均掛金月額・月額変更件数、月額変更による平均増加額等について、過去 10 年間のデータから推計した上で、責任準備金を推計する。

なお、適格退職年金からの引継金収入については、引継金の上限撤廃（平成 17 年度から）による増要因、平成 23 年度における引継終了時の一時的増要因を見込み、かつ、過去 3 年間の平均値を踏まえ 16 年度末適年契約総数の 3 割弱が中退共に移管するものと見込んでいる。
- ④ 計画の始期は平成 17 年度とする。

2 計画の課題

(1) 累積欠損金の解消年限

- ① 解消年限の分析結果によれば、平成 27 年度末で概ね 50%の確率で解消できるとなっている。
- ② 確実性を担保するため、一定期間解消年限を延長することが適当である。
- ③ 機構はその運営に当たり中期計画の履行状況を評価されること等にかんがみ、累積欠損金の計画的解消の目標年限は中期計画期間を念頭に置いて定めることが望ましい。

以上から、次期以降の中期計画期間を 5 年と想定して、累積欠損金の解消年限は平成 17 年度を始期として、第 3 期中期計画終了時の 29 年度末までの 13 年間とする。

(2) 中期計画期間内の解消目標額及び年度ごとに解消すべき累積欠損金の額としての目安額

平成 16 年度末の累積欠損金 2,284 億円を 13 年間で解消する場合、各期間均等に解消していくこととすれば年間約 180 億円となる。

したがって、年度ごとに解消すべき累積欠損金の額としての目安額は 180 億円とし、中期計画 1 期間（5 年間）当たりの解消目標額は 900 億円とする。

(3) 達成すべき運用利回り（目安）

達成すべき運用利回り（目安）は、上記 1 (2) の労働政策審議会意見の趣旨を踏まえると、予定運用利回り 1.0%に加えて、年度ごとに解消すべき累積欠損金の額としての目安額の 2 倍に相当する収益が必要となることから、2.2%とする。

3 累積欠損金の解消を図るための具体的措置

(1) 収益改善の方策

① 健全な資産運用

資産運用の基本方針に基づき、最適な資産配分である基本ポートフォリオの選定及び維持管理に努め、安全にして効率的な資産運用を実施する。

また、外部の専門家から運用の基本方針に沿った資産運用が行われているかを中心に運用実績の評価を受け、評価結果を事後の資産運用に反映させる。

② 積極的な加入促進

関係官公庁及び関係事業主団体等との連携の下に、費用対効果を考慮しつつ以下を中心に加入促進対策を効果的・機動的に実施する。

イ 広報資料等による周知広報活動

ロ 各種会議、研修会等における加入勧奨等

ハ 個別事業主に対する加入勧奨等

ニ 集中的な加入促進対策の実施

ホ 他制度と連携した加入促進対策の実施（特に適年制度から中退共制度への移行）

(2) 経費節減の方策

可能な限り契約方式を一般競争入札に変更するとともに、退職金共済事業の各業務の見直しを行い、事務の効率化に伴って全体の経費節減を図ることによって給付経理から業務経理への繰入額を節減し、累積欠損金の解消に充てる。

また、委託運用機関の選定・評価を適切に行うことなどにより、当該機関の運用パフォーマンスに留意しつつ委託費用の節減に努める。

○ 中小企業退職金共済法（昭和三十四年五月九日法律第百六十号）（抄）

（掛金及び退職金等の額の検討）

第八十五条 掛金及び退職金等の額は、少なくとも五年ごとに、退職金等の支給に要する費用及び運用収入の額の推移及び予想等を基礎として、検討するものとする。